

わたしの体、わたしの気持ち

今日は、北九州市小倉北区の小学三年生、徳久夏梨さんの作文を紹介します。題は『わたしの体、わたしの気持ち』です。

わたしは、アトピーせいひんふえんで、体をかいてしまいます。とくにあついろは、あせをたくたくかかかか、かゆみがまじまつらいます。左手のひじには、フシフシが三つあって、ひどいです。生まれて五か月からあるアレルギー、今はあさりアレルギーです。もうなん年もありません。わたしは、はだがあれているので、たまに「おかしい。」と言われることがあります。そんなことをいった人は、もしはなたいに、わたしだったとしたら……と考えるとほろいります。みんな一人一人が、あいての気持ちになって考えることができたら、きっとかなしんだりいやな気持ちになることがなくなってしまうわい。あわせいっぱいになると思えます。

いかがでしたか。

作文のタイトル「わたしの体、わたしの気持ち」には、体のことだけでなく、目には見えない「わたしの気持ち」を分かって欲しいという、夏梨さんの思いが込められています。

本人でないと、本当の辛さは分からないのかも知れません。でも、夏梨さんは、「わたしだったとしたら……と考えるとほろいります。」と

語りかけています。「もし、自分だったら」と、その辛さを周りの人たちが想像することができれば、思いやりを持った行動ができるのではないのでしょうか。

困っている人がいたら「どうしたの?」と声を掛けたり、悩んでいる人がいたら「辛いよね」と思いを寄せたり、落ち込んでいる人がいたら「大丈夫だよ」とエールを送ったり。そんな何気ない一言がうれしかったことはありませんか。

夏梨さんが作文の最後に書いた言葉、私たちにとって、とても大切なことだと思います。

「みんな一人一人が、あいての気持ちになって考えることができたなら、きっとかなしんだりいやな気持ちになることがなくなって、しあわせいっぱいになると思います。」

私たちも、まずは、身近な人の気持ちを思いやることから、「しあわせ」をいっぱい広げていきたいですね。

では、また。

